

Atherogenic dyslipidemia and residual vascular risk after stroke or transient ischemic attack

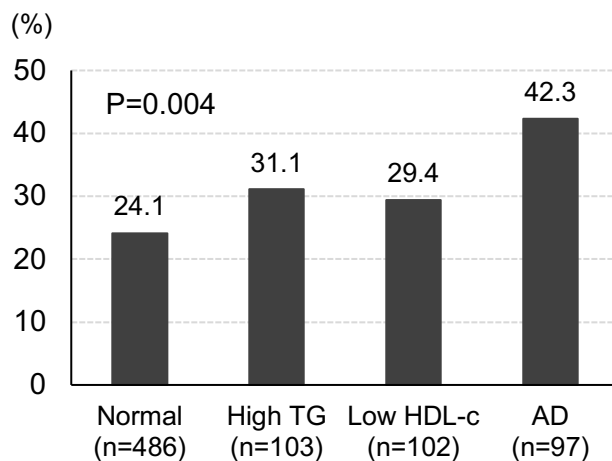
Hoshino Takao, et al. *Stroke* 2021. Online ahead of print.

スタチンを用いた LDL 降下療法の脳梗塞再発予防効果は確立しています。しかしそのリスク低下率は 20%程度にとどまり、スタチン治療後の残余リスクをいかに発見し治療するかが課題となっています。今回我々は、高 TG 血症に関わる動脈硬化惹起性(HDL 低下、small dense LDL 増加、レムナント増加)に着目し、脳梗塞患者における意義を検討しました。

当科の脳卒中データベースを解析した結果、脳梗塞/TIA 患者の AD (atherogenic dyslipidemia: 高 TG+低 HDL 血症)の有病率は約 12%であり、頭蓋外よりも頭蓋内の動脈狭窄との関連が強いことが分かりました。また、AD は脳梗塞後の血管イベント再発リスクと関連しており、しかも LDL の管理が良好な患者においても有意なリスク因子となっていました。

AD は脳梗塞患者の新たな危険因子であり、その治療が残余リスク低減につながることを期待されます。

Prevalence of intracranial artery stenosis



Kaplan-Meier curves for major adverse cardiovascular events

